

平成 26 年度 秋田県ゆとり生活創造センター「遊学舎」運営評価委員会

特定非営利活動法人あきたパートナーシップは、秋田県ゆとり生活創造センターの指定管理者として、センターがさまざまな利用をしている県民の声を生かし、円滑に運営されるよう、管理方法や運営のあり方について評価・提言をしていただくため、「秋田県ゆとり生活創造センター運営評価委員会」を設置しています。

平成 26 年 7 月 22 日（火）開催の運営評価委員会におきまして、平成 25 年度の評価・提言を頂きました。

運営評価委員

秋田県経営品質協議会	柿崎 博美
公立大学法人 国際教養大学	梶本 歩美
マックスバリュ東北株式会社	山本 まゆみ
NPO法人 あきた地域資源ネットワーク	鑑 啓記
上北手地区振興会	嵯峨 兼信
秋田地区交通安全協会上北手支部	鎌田 勇
遊学舎活動サークル 秋和流大正琴カンタービレ	藤井 祥子

運営評価

(評価点数は 5 点満点の平均点です)

1. 管理業務の実施状況について		
	①施設の利用状況はどうか。	4.2
	②適切な管理運営を行う体制が整っているか。	4.8
	③適切な施設の維持管理がなされているか。	4.7
	④収支状況、財務状況は安全かつ健全か。	3.8
2. 企画運営について		
	①施設の設置目的に沿った運営がなされているか。	4.8
	②事業の実績状況はどうか。	4.9
	③利用者に対するサービス向上の取り組みがなされているか。	4.5
	④利用者の意見を反映した運営がなされているか。	4.4

総合所見

市民活動およびNPOの中間支援という役割自体が、秋田県の市民生活の維持向上にとって非常に重要なものである。限られた人員できめ細やかな事業運営をしており、指定管理の姿勢にマンネリ化も見られない。利用者から大きな不満もない点も評価したい。財政上は、施設の経年劣化による修繕費の増加や光熱費の値上りにより単年度赤字になっていることについて、問題が無いとは言えないが、運用そのものは安定的に実施されている。秋田県内外のNPOとの連携協力にも努力している点が見られるので、この点も高く評価したい。今後、人口減少による地域社会や行政サービスの縮小が予想されるなかで、居住地域や地域を越えた市民のつながりや共助の機能は、ますます重要になると考えられる。将来を見据え、これまでの大きな実績をさらに発展させるためにも、新たな挑戦を続けてほしい。